中国へきょう出荷

来月中旬にも店頭に

農出で輸米全

JA全農は24日、中国向けの日本産米を横浜港から出荷する。日中両国が4月に日本産米の対中輸出再開を合意してから初めての輸出になる。今後、中国側の通関手続きなどを経て、早ければ7月中旬にも北京、上海両都市で販売する予定だ。

出荷するのは宮城産「ひとめぼれ」、新潟産「コシヒカリ」の2品種で、数量は合計で23トン。全農パールライス東日本の神奈川精米工場で精米した。

店頭にそのまま並べられるよう、2キロ入りの袋に詰められている。袋の表には「日本産米」と明記。裏側には炊き方や保管方法などを日本語のほか中国語でも書き、現地の消費者に配慮した。

船便以外にも、上海向けに航空便で1トンを輸出する予定だ。

中国への米輸出について全農は「経済発展に伴い富裕層が増えており、期待できる市場だ」とし、日本国内の生産者の励みにつなげたい考え。現地での販売価格は未定だが、日本国内の数倍程度になりそうだ。

米の対中輸出は同国の検疫制度の見直しで2003年に停止。中国はカツオブシムシという害虫が侵入する恐れがあるとして、再開協議に応じてこなかったが、「攻めの農政」を掲げる安倍内閣の強い働きかけで4月、日中間で検疫条件に合意した。これを受けて、全農は専門の調査員を中国に派遣するなどして輸出に向けて市場調査を進めてきた。

中国向けの米は、農水省が指定し、中国側も認めた施設で精米すること や、燻蒸処理が義務付けられている。

コンテナに積み込まれる中国向けの国産米（横浜港で）

（2007年6月24日付、日本農業新聞）